

外来医師一覧表

		月	火	水	木	金
外科	午前	田辺 大朗		田辺 大朗	甲斐 幹男	
整形外科	午前	西口 雅彦	西口 雅彦		西口 雅彦	熊本大学病院医師 福岡
	午後		西口 雅彦			熊本大学病院医師 福岡
脳神経外科	午前			藤岡 正導		藤岡 正導
	午後			藤岡 正導		
心臓血管外科	午前	済生会熊本病院医師				
循環器内科	午前	庄野 弘幸	庄野 弘幸		庄野 弘幸	
	午後	庄野 弘幸	庄野 弘幸		庄野 弘幸	
呼吸器内科	午前	済生会熊本病院医師 (隔週)				
消化器内科	午前	長島 不二夫	藤本 貴久	築村 哲人	築村 哲人	藤本 貴久
	午後				築村 哲人	
脳神経内科	午前				済生会熊本病院医師 米原(第2、4週)	
肝臓外来	午前			熊本大学病院医師 瀬戸山		
泌尿器科	午前			済生会熊本病院医師 三上(第2、4週)	済生会熊本病院医師 占部(第1、3週)	
腎臓内科	午前					町田 健治
	午後			町田 健治		
糖尿病外来	午前					済生会熊本病院医師 松尾(第3週)、星乃(第4週)
乳腺外来	午前	田辺 大朗		田辺 大朗	甲斐 幹男	
ペインクリニック	午後					非常勤医師 荒川(第2、4週)
禁煙外来	午後					藤岡 正導
動脈硬化外来	午後		藤岡 正導			
脳ドック	午後			藤岡 正導		

- 受付時間／午前8:30～11:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)
- 診療案内／TEL.0964-53-1656 FAX.0964-53-1657
- ※お電話での予約や予約変更は平日14:00～17:00に承っております。
- ※休診日がございますので、事前にお問い合わせください。
- ※再診や紹介状をお持ちの方は事前のご予約をおすすめします。

お知らせ

ホームページに最新の休診情報を掲載していますので、ご覧ください。

患者さんの権利と義務

私達は、安心して診療・治療を受けて頂くために、病状や治療法などについて十分な説明を行います。また患者さんのご負担を軽減し、同意に基づいた医療を提供します。

患者さんの権利

- 1.良質な医療を公平に受ける権利
- 2.診療の内容等について十分な説明を受ける権利
- 3.治療方法など自分の意志で決定する権利
- 4.個人の秘密や医療上の情報が保護される権利
- 5.診療記録の開示を求める権利
- 6.あなたの病気について他の医師に意見を求める権利

患者さんの義務

- 1.自分の健康状態を出来るだけ正確に伝える義務
- 2.わからない事柄について質問する義務
- 3.病院の規則と指示を守り治療に専念する義務
- 4.他の来院者に対して迷惑をかける義務

理念と基本方針

医療・福祉を通じて安心して生活できる地域づくりに貢献します。
「地域医療を支援します」「救急医療を実践します」「健康的な生活を支援します」



咲かせよう いのち 世代を越えて いつまでも。



58 Take Free.
2022.2



タブレット問診

医師年頭挨拶

みすみ病院のできごと／部署紹介[4病棟]
外来医師一覧

[特集] — 感染対策の取り組みを紹介します!
— 無料低額診療事業

「さいせい」2022年 新年のご挨拶



院長
庄野 弘幸

「健康な生活をめざしましょう。ーコロナとつきあいながらー」

あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスとの戦いが2年目となりました。しかしながら感染は全世界に広がりました。日本でもワクチン接種が行われましたが、第5波では、ワクチンが間に合わなかった若い世代を中心に多くの方が感染され、これまでに全国民の約1.5%、熊本県でも県民の約1%の方が感染されました。亡くなられた方も感染者の約1%です。昨年のうちに若い方のワクチン接種も進んできたので、これからは、第5波のような大きな感染にはならないことを祈っていますが、おそらく感染は続くことが予想されます。今年もコロナのことを忘れることはできません。ずっと日常生活の中で感染対策を続ける必要はあると思います。だからといって、じっと家の中に閉じこもるばかりでは、皆さんの体力がどんどん落ちてしまいます。おそらく昨年、運動量が減少した方が多くいらっしゃると思います。今年は、感染対策を続けながら、体を動かすこと、体力をつけることを考えていきましょう。幸い、三角・上天草地域は人口が少ないため、その分、感染のリスクは低い地域です。家の外に出てあまり人には会いません。大勢が集まって、話し合うようなことは避けたいですが、近くを散歩したり、畑仕事をしたり、魚釣りをして下さい。笑顔を忘れないことも大事ですよ。体力を維持して、元気な一年を過ごしましょう。

みすみ病院は、新型コロナウイルスの感染を予防しながら、できるだけ効率よく、三角・上天草地域の住民が安心して生活できるように診療を続けてまいります。

今年もよろしくお祈りします。



名誉院長
瀬井 圭起

令和4年新年おめでとうございます。昨年は少しの好事と沢山の困難の年で終了してしまいました。世界を覆う新型コロナのパンデミックはまる2年を経過しても未だ収束せず、人々の営みのすべてが圧縮され心身にギリギリの状態になっています。新たなコロナ変異株の出現、正体はいかなるものか、第6波の攻撃はくるのか、大変危惧されるところです。心配しても埒もない事、今日は新年のご挨拶にかえて、済生会みすみ病院の回復期リハビリ病棟の紹介と自慢話を少ししたいと思います。当病棟は海と山を眺望できる4階に40床を設置しています。スタッフは主に身体の衰え、機能障害の回復を目指す理学療法士(PT)10名、主に実生活へ復帰適応を目指して調理、家事、屋外仕事などを指導する作業療法士(OT)9名、障害された嚙下、発声、会話機能の回復のトレーニングを行う言語聴覚士(ST)3名、退院後の施設紹介や生活諸々の相談を承る医療ソーシャルワーカー(MSW)1名、患者の摂食、栄養状態をモニターし適宜な食事に対応をする管理栄養士1名、専従医師1名、そして看護スタッフ22名で構成しています。主な対象患者さんは背骨の手術後や圧迫骨折、大腿骨骨折、膝の手術後の整形外科的疾患、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、頭部外傷後遺症などの脳神経血管系障害の方々です。私は本来消化器外科の専門医で沢山の手術を手がけて来まして、本音を申しますとリハビリなんて、と失礼な思いをしていました。しかし、若いスタッフとリハビリに携わって十数年、改めてリハビリテーションの凄さを認識しました。患者さんの障害は種々様々です。寝たきりの人が起き上がります、立てなかった人が立って歩きます、飲み込みが出来ず食べられなかった人が口から食べます、話せなかった人が少しずつ会話出来るようになります、傷んだ身体から潜在能力を引っ張り出すリハビリテーション技術の素晴らしさを改めて感じる所です。私の自慢はスタッフです。私以外はほとんどが二～三十代の若者ですが、彼らは皆、ほんとうにやさしく、粘り強く、大変思いやりがあります。我が儘な患者さんにも決して怒る事はありません。今時の若者は・・・と思っていた私、爺には彼らが正に宝物です。多くの患者さんから感謝のお声を聞いています。それを褒めるとこれは営業用です、と言う者もいますが、

新年、明けましておめでとうございます。

昨年の本欄で「来年はこの欄に“コロナが収束しましたので健康フェスタと出前・健康講座を再開します”という見出しで書けることを願っております」という文章を書きました。日本での感染者数は減少傾向にあるとは言え、諸外国の感染状況をみると“収束”と言うにはまだまだほど遠いようで、今年の健康フェスタや出前・健康講座の開催も困難なように思います。それどころかオミクロン株の拡がりによっては医療体制自体が崩壊する最悪の事態さえも考えられます。いずれにしても、あと1、2年はコロナとうまく付き合ったウィズコロナの考えがより大切になるように思います。そんな中で、これまで私たちが当然と思っていた医療体制を根本から考え直す努力も必要かと思えます。私自身具体的な方法は現時点では持ち合わせていませんが、これから皆さんと一緒に最良の方策を考えていきたいと思えます。何でも結構ですのでご意見がありましたらどんどん病院へお寄せください。

今年も皆さんと一緒に知恵を出し合い脱コロナを目指しましょう。



名誉院長
藤岡 正導

明けましておめでとうございます。昨年もコロナに悩まされ、感染拡大を防ぐための新たな生活習慣、マスク・手洗い・3密を避けることが定着してきました。ようやくワクチン接種で感染の拡大にも歯止めがかかりましたが、基礎疾患のある方、既に闘病中の方は、今後も自らの健康を守ることが基本です。病気や疾患がある方は、病院受診を怖がり治療を自己中断しがちですが、病気や疾患が悪化しないように治療を継続することが大切です。みすみ病院整形外科も、感染の発生に注意し普段の外来診療・手術を行っています。入院に際しては、面会が禁止されましたが、感染拡大を防ぐために必要です。

昨年も書きましたが、生活の中に運動習慣を取り入れることが健康維持のために必要です。外出を控えた方も多いと思いますが、身近な生活環境でウォーキングや散歩、体操は重要です。“身体を動かさない不活発な生活”は、身体の熱量生産が小さく(カロリー消費が少なく)、変形性膝関節症(ロコモ)、肥満(メタボ)、心血管系障害が悪化します。百薬の長は筋運動(歩くこと)にあります。健康向上に効果をもたらすのは、通勤時の歩行、駅の階段昇降、自転車での通学通勤、家事労働、農作業、荷物の運搬など、日常的に継続可能な有酸素運動です。額に汗がうっすらと浮かぶ程度の日常的な筋運動が慢性炎症を抑制し、ロコモ(筋萎縮)の防止に大変効果があります。

高齢者が病気や環境の変化に弱くなる虚弱状態をフレイルと呼びます。また、筋肉の衰えをサルコペニアと言います。筋肉が減り筋力(握力)が落ちると、身の回りのことが出来なくなり介助や介護が必要となるだけでなく、死亡する危険や寿命も短くなります。みすみ病院では、筋肉や骨の衰えを測定できます。検診・検査でロコモやフレイル・サルコペニアに気づくことができます。必要な栄養をとり、筋肉の衰えを防ぐため運動を続けることが、自立した生活を続けるために必要です。予防や治療に取り組み、一人一人が健康長寿を目指しましょう。腰痛や骨粗しょう症、首や肩の痛み、手足の痛みやしびれ、膝関節の痛みがある場合は整形外科に相談して下さい。



整形外科部長
西口 雅彦



「さいせい」2022年

新年のご挨拶



外科部長
甲斐 幹男

2年前の新年の挨拶ではインフルエンザについて書いたように思います。このご挨拶を皆様が読まれるときには、コロナやインフルエンザがほとんど無い状態が続いておりますように。

インフルエンザはこの2年間ほとんど見かけることがなくなりました。人から人にうつる病気が、こんなに生活様式の変化で減少することが驚きです。コロナに対しての注意した生活をみんなが行うことで、副次的にインフルエンザが減少したのだと思います。南半球でのインフルエンザの半年先行する流行がないことに加え、日本でも手洗いやマスクをするといった、生活上での注意が行き渡ることが、インフルエンザを減少させているのでしょう。しかし、この2年間インフルエンザが流行しなかったことにより、インフルエンザに対しての抵抗力が低下した人が増えているはずで、ノロウイルスやロタウイルスによる嘔吐下痢症など、コロナのみならず、いろんなウイルスによる病気が冬の間にはやる可能性があります。これからお気をつけて、皆様生活されてください。

明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いいたします。小惑星探査機はやぶさ2が一昨年末地球に帰還し持ち帰った小惑星の砂や石は分析が進んでいるとのことで、今年多くの発見・発表があることを期待しております。昨年は、民間人が宇宙へ気軽に旅行出来る時代の到来が間近であることが期待できるようになった年だったと思います。民間人の日本人が初めて(日系人を除いて)宇宙へ行ったのは実に30年ほど前で、アナウンサーの秋山さんでした。旧ソ連のミール宇宙ステーションにも滞在したそうです。宇宙という閉ざされた空間の中ですので、宇宙飛行士たちは互いに協力し合いながら宇宙にいる間、過ごしていると思います。私もいつかは宇宙に行ってみたいという気持ちを持ちつつ、まずは地球上で皆さまの健康維持に貢献できるよう多職種とも協力し合いながら切磋琢磨していきたいと思っております。



腎臓内科
町田 健治

謹んで新春の祝辞を申し上げます
ここ2年余り、世界的なコロナウイルスの流行によりいろんな変化が見受けられます。皆さんの周りは如何でしょうか・・・。

人類は発生以来、細菌やウイルスと戦い或いは共存して来たと言われております。以前ペニシリンの発明で感染症は根絶されると言われた時代もありましたが、彼らも然ることながら変異や薬に対する耐性を得て生き延びています。今日まで、このような状況がいたちごっこで繰り返されています。

今回のコロナ禍では、薬もワクチンも間に合わず感染の拡大によって地球レベルでパニック状態となったわけです。我々は如何に対処すれば良いのでしょうか・・・。一昨年小池東京都知事発言によるウイズコロナの言葉を最近よく耳にします。我々が彼らと共存し負かされないためには、強い体(運動・栄養・精神)と外部からの彼らの侵入防止(マスク・うがい・手洗い)で対処していく必要があります。体も長年の使用で万全の状態とは言えないと思います。一病息災、少し体に弱いところが有ると注意を払うためにより健康であると言われております。

新しく生まれたものが成長すると言われていた壬寅(みづのえとら)、皆さんご健勝を祈念しております。



麻酔科
尾方 信也

新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。



副院長
藤本 貴久



診療部長
田辺 大朗

新年明けましておめでとうございます。

振り返ってみますと、2021年は新型コロナウイルスが猛威を振るい大変な1年でした。緊急事態宣言下での東京オリンピックの開催は記憶に新しいところです。また、地球温暖化による気象異常、豪雨による水害なども重なり、正に泣き面に蜂でした。

暗い話題ばかりではありません。明るい話題もありました。将棋界では藤井聡太竜王が史上最年少の19歳で四冠を達成しました。また、野球界ではメジャーリーガーのエンゼルス大谷翔平選手がア・リーグの最優秀選手(MVP)に輝きました。我々に夢と希望を与えてくれました。

2022年はどんな年になるのでしょうか。新型コロナウイルス感染だけではなく、インフルエンザや感染性胃腸炎にも注意しなければいけません。感染対策の基本は変わりません。①できるだけ外出を控えること②こまめに室内の換気を行うこと③手洗い、マスク装着、うがいを励行すること④できるだけ密を避け、ソーシャルディスタンスを保つことなどです。みんなで協力してこの逆境を乗り越えなければいけません。今年も皆様が健康で幸せな生活を送れますよう、心からお祈り申し上げます。



消化器内科
築村 哲人





▲クリーンパーティション

▲エコムシュウ

感染対策の取り組みを紹介します！

当院では入館時の体温測定や手指消毒に加え、仕切り(パーティション)の設置など様々な感染対策を行っています。換気のしにくい場所には、空気清浄機機能のついた「クリーンパーティション」を設置しています。また、使用済みのガウンや手袋、オムツなどを入れると瞬時に密封してくれる「エコムシュウ」という機器も設置しています。

感染のリスクから受診を控える方もいらっしゃいますが、健康に不安があるときは安心して受診していただけるよう日々努めております。

企画総務室

無料低額 診療事業

済生会の福祉の
取り組みを知っていますか？



済生会の誕生は、日清・日露戦争後、戦争で傷つき、貧困にあえいでいる国民の状況を見かねた明治天皇が明治44年に、時の内閣総理大臣であった桂太郎を御前に召され、「生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療(無償で治療すること)によって救おう」と「済生勅語」を発し、お手元金150万円を下賜されたことから始まります。創立当初は、大河ドラマ「青天を衝け」の主人公である渋沢栄一も役員の1人でした。

その精神を受け継ぎ、済生会では「無料低額診療事業」を行っています。無料低額診療事業は、社会福祉法に基づいて、経済的理由により適切な医療等を受けられない方々に対して安心して治療を受けて頂くため、無料または低額で診療等を行う事業です。利用には一定の条件があり、対象となるのは当院の診療費に限ります。また、他にも生活困窮者支援事業(なでしこプラン)も行っております。

「病院を受診したいけど、医療費が心配」等ございましたら、お気軽に医療ソーシャルワーカーへご相談下さい。

医療相談室

みすみ病院の できごと

SAISEIKAI MISUMI HOSPITAL

公用車のマグネットシートを作成しました

当院では患者さんのご自宅へお伺いする訪問診療や訪問リハビリテーションを行っていますが、病院名が入っている公用車が少なく、病院の車ということになかなか気づいていただけませんでした。

そこで、12月にマグネットシートを作成しました。海に近い病院であることから「波」をイメージしたデザインに、可憐な撫子の花を添えて仕上げました。

すでにご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、このマークを見かけたらみすみ病院です。今後ともよろしく願いいたします。

企画総務室



▲公用車マグネットシート



▲公用車マグネットシートデザイン

部署紹介★

多職種とも協働し日々より良いケアを目指して頑張っています。

当病棟は回復期リハビリテーション病棟といい、手術後または発病後早期の患者に対してリハビリテーションを行う専門病棟です。入院可能な期間が長く、疾患によっては最大180日となることもあります。

一般病棟とは異なり、専任の医師・療法士が配置され、看護スタッフと協働してリハビリテーションを計画し、これに基づいて密度の濃い訓練を集中的に行っています。また、各種カンファレンスを実施しており、薬剤師や栄養士やMSWなどの多職種とも協働し日々より良いケアを目指して頑張っています。

先日、退院された患者さんから病棟スタッフ宛に手紙が届き、温かいメッセージにとっても嬉しい気持ちになりました。

4病棟

